

ウィークリー・アウトック

米・イラン協議再開？ 原油価格は？

【今週のポイント】

- ・米・イラン和平交渉が21日に再開されるか。原油価格はどちらに動くか
- ・米ドル/円はウォーシュ次期FRB議長の承認公聴会の影響を受けそう
- ・NZのCPIで市場のRBNZ金融政策見通しがどのように変化するか

先週は、米国とイランの和平協議の進展が期待され、またイランはホルムズ海峡封鎖の解除を表明しました。その結果、市場のリスクオフが大きく巻き戻り、日経平均やS&P500は最高値を更新。原油価格は下落したものの、いわゆる資源・新興国通貨が堅調でした(メキシコペソを除く)。

もともと、週末になって、米駆逐艦がイラン船籍の貨物船を拿捕。いったん封鎖を解いたイランは再びホルムズ海峡を封鎖しました。20日の日経平均株価は17日の米株の上昇にキャッチアップするかのようによく始まりました。和平協議進展の期待が織り込まれているとすれば、やや楽観的に過ぎるようにも思えます。今後の状況次第ではあるものの、17日に一時80ドル近くまで下落したWTI原油先物価格は90ドル近くまで上昇しており、市場では先週末に比べてリスクオフが強まりそうです。

今週の主要経済指標・イベント

			当社予想	市場予想	前回値
4月20日	21:30	【カナダ】CPI 前年比(3月)	2.6%	2.6%	1.8%
4月21日		米国とイランの停戦期限			
	7:45	【NZ】CPI 前年比(1-3月期)	3.0%	2.9%	3.1%
	21:30	【米】小売売上高 前月比(3月)	1.6%	1.4%	0.6%
		【米】小売売上高(除自動車) 前月比(3月)	1.5%	1.4%	0.5%
	23:00	【米】ウォーシュ次期FRB議長候補の承認公聴会			
4月22日	15:00	【英】CPI 前年比(3月)	3.4%	3.3%	3.0%
		【英】CPIコア 前年比(3月)	3.1%	3.2%	3.2%
	17:00	【南アフリカ】CPI 前年比(3月)	3.2%	3.1%	3.0%
	20:00	【トルコ】TCMB政策金利	37.00%	37.00%	37.00%
4月23日		【トルコ】祝日(国民主権とこどもの日)			
	22:45	【米】S&Pグローバル製造業PMI速報値(4月)	51.0	52.5	52.3
		【米】S&Pグローバルサービス部門PMI速報値(4月)	50.0	50.1	49.8
4月24日	8:30	【日】CPI 前年比(3月)	1.5%	1.4%	1.3%
		【日】CPI(生鮮食品を除く) 前年比(3月)	1.7%	1.7%	1.6%
		【日】CPI(生鮮食品・エネルギーを除く) 前年比(3月)	2.5%	2.4%	2.5%

市場予想はBloomberg、4月20日09:00現在。発表日時は日本時間。

トランプ大統領は、21 日にもパキスタンで米国とイランが和平交渉を再開するとし、合意がなければイランの発電所や橋梁を破壊すると発信しました。しかし、イランは交渉を拒否する姿勢との報道もあります。実際に和平交渉が再開されるか、さらには交渉がどう進展するかは大きな相場材料となりそうです。

AIS(自動船舶識別装置)データに基づく Bloomberg の報道によれば、ペルシャ湾からホルムズ海峡を通過して外に向かった船舶(出域)は 18 日に 18 隻と前日の 5 隻から増加。ペルシャ湾に向かって同海峡を通過した船舶(入域)は 9 隻と前日の 4 隻から増えました。しかし、19 日はいずれも 0 隻でした。

21 日に期限を迎える米国とイランの停戦合意は 2 週間程度延長される可能性が高そうです。それでも、米国とイランの和平交渉が始まらなければ、またホルムズ海峡の封鎖が続いて原油価格が高騰すれば、リスクオフが強まるでしょう。

21 日には米上院銀行委員会で、ウォーシュ次期 FRB 議長の承認公聴会が開催されます。パウエル議長への召喚状問題が解決しなければ、ウォーシュ氏が承認される可能性は低そうですが、同氏がトランプ政権からの利下げ圧力や足もとの原油高について何を語るか興味深いところです。

各国の CPI(消費者物価指数)が発表されます。カナダ(20 日)、ニュージーランド(21 日)、英国や南アフリカ(22 日)、日本(24 日)など。ニュージーランドの CPI は 1-3 月期分ですが、それ以外は 3 月分。原油価格の高騰が各国 CPI をどれだけ押し上げるか。原油価格が消費者段階に波及するまでにタイムラグはあるでしょうが、影響の一端をみることはできそうです。〈西田〉

今週は引き続きイラン情勢を注視する必要がありそうです。仮にイラン情勢をめぐる懸念が強まれば、原油価格には上昇圧力が加わり、リスクオフ(リスク回避)が強まると考えられます。原油価格の上昇はノルウェークローネやメキシコペソなど産油国の通貨にとってプラスになりそう。リスクオフが強まる場合には、米ドルが堅調に推移して、豪ドル/米ドルや NZドル/米ドルは下値を試す展開になると考えられます。カナダドルは産油国の通貨ですが、米ドル/カナダドルについては原油価格の動向以上にリスクオン/オフの影響を受けるとみられます。

米ドル高・円安に振れた場合の本邦当局の対応にも注目です。仮に為替介入(米ドル売り・円買い介入)が実施される、あるいは介入しなくてもその準備とされるレートチェックがあれば、米ドル/円が大きく下落して、豪ドル/円や NZドル/円など対円の通貨ペアはそれに引きずられるとみられます。

22 日には TCMB(トルコ中銀)の政策会合が開かれます。TCMB は前回 3 月の会合で政策金利を 37.00%に据え置きました。TCMB は 25 年 7 月から 26 年 1 月まで 5 会合連続で利下げを行っており、政策金利が据え置かれたのは 6 会合ぶりでした。

TCMB は今回も政策金利を据え置くとの見方が市場では優勢。そのとおりの結果になれば、声明で先行きの金融政策についてどのようなヒントが提供されるかに注目です。前回会合の声明では、「実際のイン

フレ率やインフレ期待、およびそれらの基調を踏まえ、中間目標に沿ったデysinフレの道筋に必要な引き締め度合いを確保するように政策金利を決定する」、「金融政策の決定は、インフレ見通しを重視しつつ会合ごとに慎重に行う」、「インフレ見通しが顕著かつ持続的に悪化した場合、金融政策スタンスを引き締める」などと表明されました。〈八代〉

今週の注目通貨ペア①: <米ドル/円 予想レンジ:155.000 円~161.000 円>

米国とイスラエルによるイラン攻撃が続いて市場のリスクオフが強まった3月、Bloomberg が集計する主要17通貨のうち、最も強かったのは米ドル、ブラジルレアルを挟んで円は3位でした。4月に入ると、米国とイランの和平交渉への期待からリスクオフが大きく後退。17日までをみると、米ドルが17通貨中最弱、次いで、円が米ドルとほぼ同じ弱さでした。

したがって、円は引き続き「安全通貨(リスクオフが強まると買われやすい通貨)」と言えるでしょう。ただし、米ドルとの関係では、円より米ドルの方がリスクオフに強いと言えそうです。リスクオフが強まっても米ドル/円が160円をほとんど超えないのは、ひとえに本邦当局による円買い介入への警戒感からでしょう。それがなければ、米ドル/円は160円を超えて上昇しても不思議ではなかったでしょう(仮説ですが)。

日銀による利上げ観測が後退していることも、「円安」要因になっています。FRBは27-28日のFOMCを前にブラックアウト(FOMCの10日前から目先の金融政策について語らない)期間になっています。21日の上院銀行委員会でのウォーシュ次期FRB議長の承認公聴会が予定通り行われれば、FRBの独立性や原油高の影響についての見解が聞かれそうです(銀行委員会の民主党議員全員が公聴会の延期を求めているようです)。〈西田〉

今週の注目通貨ペア②: <ノルウェークローネ/スウェーデンクローナ

予想レンジ:0.95000S クローナ~1.00000S クローナ>

市場のリスクオフが強まった3月、Bloomberg が集計する主要17通貨のうち、ノルウェークローネは強い順で5番目、スウェーデンクローナは15番目でした。いずれも、流動性は高くありません。BIS(国際決済銀行)の25年4月調査で、取引量はノルウェークローネが13位、スウェーデンクローナが11位でした。

ノルウェークローネ/スウェーデンクローナ(NOK/SEK)が3月に上昇したのは、原油価格が高騰したことで、北海油田を持ち、エネルギー自給率でOECD加盟国中1位(23年805.3%)のノルウェークローネの強みが意識されたからでしょう。

4月に入ると、主要17通貨中の上昇率はノルウェークローネが6位、スウェーデンクローナが7位でした。リスクオフで資源・新興国通貨が買われた一方、原油価格は軟化したものの、イラン戦争前の水準を大きく上回っていることがノルウェークローネのバッファーになったものとみられます。

今後、原油価格が一段と上昇するならば、NOK/SEKのプラス材料になりそうです。一方、原油価格が下落しても、それが急落でない限り、リスクオフの後退がノルウェークローネを下支えする形となりそうで

す。カナダドルやメキシコペソは産油国通貨ですが、米ドル/カナダドルやカナダドル/円、メキシコペソ/円は原油価格以上と同等か、それ以上にリスクオン/オフの影響を受けそうです。その点、NOK/SEK は両通貨のリスク特性が似通っているため、比較的ストレートに原油価格の動向を反映すると考えられます。〈西田〉

今週の注目通貨ペア③:〈豪ドル/NZドル 予想レンジ:1.20500NZドル~1.22500NZドル〉

先週(4/13-)の豪ドル/NZドルは堅調に推移し、17日には一時1.21879NZドルと、8日につけた13年ぶりの高値(1.21939NZドル)に接近しました。

RBA(豪中銀)のハウザー副総裁のタカ派的な発言や、豪州の3月雇用統計の堅調な結果が、豪ドルにとってプラスになったと考えられます。

RBAは2月と3月の2会合連続でそれぞれ0.25%の利上げを実施しており、現在の政策金利は4.10%です。ハウザー副総裁は4月13日の講演で、「豪州のインフレ率は高すぎる(※)」と指摘。「インフレ率を2~3%の目標レンジに戻す必要がある」とし、「政策金利を(目標レンジに戻すのに)適切な水準に設定したという強い確信はない」と述べました。

(※)RBAがコアインフレ率として注視するCPI(消費者物価指数)トリム平均値は、25年10-12月期(四半期)が前年比3.4%、26年2月(月次)が同3.3%でした。RBAのインフレ目標は2~3%(中間値は2.5%)です。

16日に発表された豪州の3月雇用統計の結果は、失業率が4.3%、雇用者数が前月比1.79万人増。失業率は市場予想どおり、雇用者数は市場予想の2.00万人増を下振れました。ただ、雇用者数の内訳をみると、フルタイム雇用者が前月から5.25万人増加(パートタイム雇用者は3.46万人減少)しており、雇用者数の結果はヘッドラインが示唆するほど弱くないとみることができます。

市場では、RBAは次回5月4-5日の会合で0.25%の追加利上げを行うとの見方が優勢。OIS(翌日物金利スワップ)に基づく、17日時点で市場が織り込む5月会合での利上げ確率は約7割です。

今週は豪州の主要な経済指標の発表は予定されていない一方、NZの1-3月期CPIが21日に発表されます。その結果が豪ドル/NZドルの相場材料になりそうです。

OISに基づけば、市場ではRBNZ(NZ中銀)は次々回7月の会合で0.25%の利上げを行うとの見方が優勢です。

NZのCPI総合の市場予想は前年比2.9%と、上昇率は前期(25年10-12月期)の3.1%から鈍化し、RBNZの目標レンジ(1~3%)に戻るとみられています。イラン戦争に起因する原油価格上昇の影響は4-6月期CPI(7月発表予定)で大きく出てくると考えられ、ブレマンRBNZ総裁は4月8日の会合後の会見で4-6月期の上昇率は4.2%になるとの見通しを示しました。

NZ の CPI が市場予想を上回る結果になれば、RBNZ による利上げ観測が強まるとともに、NZ ドルにとってプラスになりそう。その場合、豪ドル/NZ ドルは上値が重い展開になる可能性があります。〈八代〉

今週の注目通貨ペア④: <米ドル/カナダドル 予想レンジ: 1.35000 カナダドル~1.38500 カナダドル>

米ドル/カナダドルは 17 日に一時 1.36486 カナダドルへと下落し、3 月 13 日以来およそ 1 カ月ぶりの安値をつけました。米国とイランが 7 日に 2 週間の停戦で合意し、イランのアラグチ外相が 17 日にホルムズ海峡を完全に開放すると表明しました。それらを受けて安全資産とされる米ドルに対して下押し圧力が加わったことが、米ドル/カナダドル下落の主な要因と考えられます。

ただ、イランの革命防衛隊は 18 日、ホルムズ海峡を再び封鎖したと発表。トランプ米大統領は 19 日、イランが和平合意を受け入れなければ、同国の発電所や橋を全て破壊すると述べました。今後のイラン情勢次第ではリスクオフ(リスク回避)が強まる可能性があり、その場合には米ドル/カナダドルは上昇に転じそうです。

カナダの 3 月 CPI が 20 日に発表されます。OIS(翌日物金利スワップ)に基づくと、市場では BOC は 10 月の会合で利上げを行うとの見方が優勢です。CPI が市場予想を上回る結果になれば、BOC による利上げ観測が強まるとともに、カナダドルにとってのプラス材料になる可能性があります。〈八代〉

<執筆者>

執筆者プロフィール



西田 明弘 (にしだ あきひろ)

チーフエコノミスト

日興リサーチセンター、米ブルッキングス研究所、三菱UFJモルガンスタンレー証券などを経て、2012年マネースクウェア・ジャパン（現マネースクエア）入社。

米国を中心とした各国のマクロ経済・金融政策・政治動向の分析に携わる。

「アナリスト、ストラテジスト、エコノミスト、研究員と呼び名は変われども、30年以上一貫してリサーチ業務を行ってきました。長い経験を通じて学んだことは、金融市場では何が起きてても不思議ではないということ。その経験を少しでも皆さんと共有したいと思います。」

執筆者プロフィール



八代 和也 (やしろ かずや)

シニアアナリスト

2001年ひまわり証券入社後、為替関連の市況ニュースの配信、レポートの執筆などFX業務に携わる。2011年、マネースクウェア・ジャパン（現マネースクエア）に入社。

豪ドル、NZドル、カナダドル、トルコリラ、南アフリカランド、メキシコペソを中心に分析し、レポート執筆のほか、M2TV出演、セミナー講師を務めている。

【プロフィール】 広島県出身。

【趣味】 野球・サッカー観戦。

【一言】 より分かりやすくタイムリーなレポートを心掛けています。

※当レポートは、情報提供を目的としたものであり、特定の商品の推奨あるいは特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。

※当レポートに記載する相場見通しや売買戦略は、ファンダメンタル分析やテクニカル分析などを用いた執筆者個人の判断に基づくものであり、予告なく変更になる場合があります。また、相場の行方を保証するものではありません。お取引はご自身で判断いただきますようお願いいたします。

※当レポートのデータ情報等は信頼できると思われる各種情報源から入手したものです。当社はその正確性・安全性等を保証するものではありません。

※相場の状況により、当社のレートとレポート内のレートが異なる場合があります。

当社サービスに関する注意事項

・取引開始にあたっては契約締結前書面をよくお読みになり、リスク・取引等の内容をご理解いただいた上で、ご自身の判断にてお願いいたします。

・当社の店頭外国為替証拠金取引および店頭 CFD 取引は、元本および収益が保証されているものではありません。また、取引総代金に比較して少額の資金で取引を行うため、取引の対象となる金融商品の価格変動により、多額の利益となることもありますが、お客様が差し入れた証拠金を上回る損失が生じるおそれもあります。また、各金融市場の閉鎖等、不可抗力と認められる事由により店頭外国為替証拠金取引および店頭 CFD 取引が不能となるおそれがあります。

・店頭外国為替証拠金取引、店頭 CFD 取引における取引手数料は無料です。

・当社が提示するレートには、買値と売値に差（スプレッド）があります。流動性が低くなる場合や、天変地異または戦争等による相場の急激な変動が生じた場合、スプレッドが広がる場合があります。

・店頭外国為替証拠金取引に必要な証拠金額は、個人のお客様の場合、取引総代金の 4%以上です。法人のお客様の場合、取引総代金に、金融先物取引業協会が算出した通貨ペアごとの証拠金率（為替リスク想定比率）を基に当社が算出した証拠金率を乗じた金額となります。為替リスク想定比率は、金融商品取引業等に関する内閣府令第 117 条第 27 項第 1 号に規定される定量的計算モデルを用い算出します。なお、証拠金率（為替リスク想定比率）は変動いたします。店頭 CFD 取引に必要な証拠金額は、取引総代金の 10%です。

金融商品取引業 関東財務局長(金商)第 2797 号

【加入協会】日本証券業協会 一般社団法人 金融先物取引業協会
株式会社マネースクエア
